

技術委員長に日水コン高山氏

スマート水道推進協会 HP、総会など審議

スマート水道推進協会（会長 坂本弘道氏、専務理事 石井健彦氏）は22日、第2回企画運営委員会（委員長 武内辰夫・東京設計事務所特任理事）を東京都千代田区の東京設計事務所会議室で開いた。今回は技術委員の選出および運営について、ホームページの作成など作業進捗の確認、総会に向けての進め方の確認について審議した。

同協会はIoTなどを活用し、水道事業のスマート化を目指すために昨年9月に発足した。スマート化のための情報交換や実証実験を行う。現在、会員は12社（前澤化成工業、前澤給装工業、愛知時計電機、日水コン、日之出水道機器、東京設計事務所、光明製作所、柏原計器工業、アズビル金門、センサスジャパン、ヴェオリア・シエネット、アイトロン）となっていて、さらに増加する見込み。



スマート水道の実現へ構想を考える

冒頭、武内委員長が「水道のスマート化を進めるために、会員の皆さんや関係者と協力しながら進めていきたい」とあいさつ。早速、議事に入り技術委員会については、委員長に高山尚人・日水コン中央研究所副所長が選出された。高山委員長は「各社から技術を出してもらい、よい方向にいくよう進めていきたい」と抱負を述べた。委員は各社から出されることになった。委員会では水道のスマート化を図るための構想を考えていく。水源から蛇口までの間、どこでどのような技術を使えばスマート化が図れるか検討するという。

ホームページについてはデモ画面が公開された。4月オープンを目標に作業を進めていく。HPには水道スマートシステムの紹介、会員募集案内などを掲載していく。

総会は5月から6月にかけて開催する予定。総会後には講演会、懇親会を開く。また、スマート水道の広報活動として講演活動も行っていくという。

坂本会長は「前例がないので手探りで進めていかなければいけない。皆さんの協力を」と述べ、石井専務理事は「水道のスマート化は事業体の理解を得ることが重要だ」と協力を求めた。

同協会の活動方針は、水道スマートシステムについて機器などの研究開発、機器普及の推進、機器運用のガイドライン作成、機器の実用にあたり関係官庁への承認活動となっている。水道スマート化を希望する事業者との共同実験や下水道、工業用水道などの関係者へのスマート化に関する情報提供も行う。また、水道スマートメーターの普及活動に努めている水道技術研究センターと協力していく方針。

協会の組織は会長、専務理事、理事、企画運営委員会と技術委員会という構成で、理事は坂本会長、石井専務理事に加え、眞柄泰基・給水工技術振興財団理事長、東京設計事務所、日水コンの5人体制となっている。顧問には一柳善郎氏が就任している。